

演劇や音楽などが組み合わせられ、現代の総合芸術と言われる映画。このまちでも、映画を活用して地域を盛り上げようとする取り組みが進められている。その中心を担うまちづくり大使の川岡大次郎さんに話を聞いた。



まちづくり大使(俳優)川岡 大次郎 さん

大河ドラマ「龍馬伝」、連続テレビ小説「花子とアン」など数々の映画やドラマに出演。2016年にテレビ番組の企画により本市で移住生活を経験。2018年、市内で撮影した短編映画「HELP!!」をプロデュースし、さめき映画祭のグランプリを受賞。



映画を通じた「恩返し」

「シーン〇〇、本番ヨイ……」。忙しなく駆け回っていた撮影スタッフの動きが止まり、現場の緊張感は一気に高まる。昨年12月、市内で行われた映画撮影の一コマ。その中に、ひと際真剣なまなざしを注ぐ男性がいた。俳優業の傍ら、若手俳優の養成スクールも主宰し、本市まちづくり大使も担う川岡大次郎さんだ。

3年前にテレビ番組の企画で、本市への移住体験がきっかけとなり、このまちと関わるようになった川岡さん。「近所の人が野菜をおすそ分けしてくれたり、手料理を振る舞ってくれたり、本当に快く接してくれました。東京ではありえないので、それが嬉しかった」と当時を振り返った。18歳から飛び込んだ映画やテレビの世界。そこで培ってきた経験や人脈。「いつかこのまちにお返ししたい」と川岡さんならではの恩返しをずっと模索していたのだという。

このまちの人の魅力を伝えたい

人口が減少する中、どこの自治体もPRに力を注ぐ昨今。おいしい特産品や豊かな自然など、我がまちを自慢するPR動画はインターネット上に溢れかえっている。話題を得ようと趣向を凝らした動画が、次から次へと生まれては消えている。「映画なら『作品』として必ず残ります。どんなに時代が変わっても、良いものは変わらない」と映画の持つ魅力を語り、「他ではまねできない、作品として価値が高いものを残したい」と本市での映画制作の意気込みを力強く語ってくれた。



↑撮影には多くの市民がエキストラとして参加した。
↓撮影の合間を縫って、市民との交流を深める川岡さん。



2年前の9月にまちづくり大使に就任し、その年の冬には早くも本市で映画のプロデュースをスタートさせた。ほぼ全編が市内で撮影された短編映画「HELP!!」は、国内有数の映画祭である「さめき映画祭」で見事グランプリを受賞。「その経験は自信になったし、新しいつながりが増えた」と語る彼は、本市でのプロデュース作品第2弾となる短編映画「HARMONY」を現在制作中だ。

今回の映画は廃校となった戸田小学校のピアノがモチーフ。使われなくなり、教室の隅に放置されたピアノが、修復されてコンサートで復活するというストーリーだ。「ピアノの音が鳴るといことは、鍵盤を弾く誰かがそこにいるということ」。このまちの〇人にスポットを当てたいという川岡さんの強い思いが、作品に込められている。「移住していた時に、触れ合った人の温かさ。そ

夢は映画祭の開催

「那須塩原で映画祭をやりたい」。3年前から思い描いていた構想は、本市での撮影を重ねるにつれ、少しずつ現実に近いものがある。映画祭では、若手監督の作品などがあちこちで上映され、多様な映画との新しい出会いがあるだろう。観光客がプログラムを片手に歩き、まちは賑わうに違いない。そんなイメージを膨らませながら、「映画祭で、ハーモニーは主要作品の一つになる」と、自信に満ちた表情で語ってくれた。

今年23日には「ハーモニー」の完成記念上映会が行われる。「ぜひ会場に足を運び、少しでも良いので僕に時間を下さい」と呼びかける川岡さんが会場で皆さんを待っている。



ほぼ全編を市内で撮影した短編映画「HELP!!」。2018年のさめき映画祭ショートムービーコンペティションで見事グランプリに輝いた。



短編映画「HELP!!」は ←から見られます

「HARMONY」完成記念上映会 開催



昨年、皆さんの協力を得て撮影した短編映画「HARMONY」。ART369プロジェクトのオープニングセレモニーで上映します。詳しくはP9へ